

書塾の仲間たち

第 248 回

やくり 八栗教室（香川県高松市）



●書塾からひとこと ●

本塾は、香川県の五剣山の麓、高松市牟礼町にあります。この辺りは、五剣山にある八栗寺にちなみ「八栗」という呼び名で親しまれてきました。本塾はその呼び名をお借りし「八栗教室」として活動しています。

本塾では、「正しい字を正しく書く」を念頭に置き、日々研鑽をしています。

昨今、日常生活の中では、文字の書き順や字形などが重視されなくなってきたことに感じています。書き順や字形は「正しい字を正しく書く」ための大変な要素です。本塾は、とりわけそこを重点的に稽古しています。

塾生の多い大きな塾とは違い、本塾は小さな塾である特徴を活かし、塾生一人一人に合わせて指導しています。みんなで和気藹々と取り組みながらも、日々切磋琢磨している和やかな空間です。

生徒の年齢層は現在は小学生が中心ですが、幼年から一般まで幅広く受け入れています。中学校や高校に進学して本塾に通えなくなつた子たちにも、夏休みや冬休みの課題などで毛筆の練習が必要になった場合は、いつでも来るよう伝えています。

私自身も、幼年期から現在に至るまで書道を続けることができたのは、稽古時間のことを行ひめ、柔軟に対応してくださった二人の師匠のおかげだと考えているからです。

今度は私がこれから若い世代に伝えていく番です。できる限り塾生の要望に応えたいと思っています。

書道は楽しいもの、そして身近なものとして残り続けてほしいと考えています。これからも微力ながら貢献できるよう、力を尽くし、精進してまいります。

八栗教室

山内 龍河

※書塾に連絡したい方は事務局へお問い合わせください。

ぼくが習字を始めたのは、小学三年生の時です。始めたきっかけは、字を書くこととは一生関わり続けるから自信を持って書けるようになつてほしいと母からすすめられたことでした。元々字を書くことがあまり好きではなかつたので、初めは座つてただ字を書くだけなんてつまらなさそうだと思つていました。でも、クラスに字がきれいなお友達がいていいなと思っていましたこともあり、とにかくやってみることにしました。

実際始めてみると、毛筆ではとめ・はね・はらいなど、筆の動かし方がむずかしくて苦戦しました。どう書いたらいいのかと、上手なお友達の書き方を觀察し過ぎて「あんまり見るとお友達が書きにくくなるよ」と先生に言われたこともあります。

先生の教えてくれたことを思い出しながら、とにかくお手本を見てまねをして書く。そのくり返しで少しずつ上達してきました。硬筆は少し苦手で、お手本がないとバランスが悪くなってしまいます。

習字の楽しさは、集中してのめりこんで作品を作れること、そして練習の成果が目に見えて分かることです。なつとくできる字が書けた時は、思わず心の中で「よし！」ときけんでしまいます。花丸のついた作品を見て「きれいに書けているね。上手くなつたね」と言われたらとても嬉しくなります。始めたときのことが嘘みたいに今では習字が大好きになりました。

五年生になって、おかげで週二回にふやしました。もつともつと練習して上手になりたいからです。ぼくの目標は、お手本がなくとも整つたきれいな字が書けるようになることです。失敗しても落ち込まずに何回もちよう戦して、大好きな習字をずっと続けていこうと思います。

習字と出会つて

福岡県筑紫野市立原田小学校五年
萩原 健仁

小五 萩原 健仁



私と書写書道 第248回

三姉妹のバトン

福岡県筑紫野市立原田小学校六年
林 茅朱

小六 林 茅朱



私が書道を習い始めたきっかけは、書道に取り組む姉の姿でした。いつもおしゃべりな姉が無口になり、一生懸命書いている姿を見ると私も姉みたいなきれいな字を書いてみたいという気持ちでいっぱいになりました。けれどなかなか両親に言い出すことができず、みんなに字がきれいとほめられる姉の姿をいいな、と思いながらいつも見ていました。ある時勇気を出して両親に「私も書道がやりたい」と伝えたところ、父からいいよと言われ、とてもうれしかったです。そうして私は習字を習い始めました。

最初のうちは筆使いも何もわからない状態で、うまく書けませんでしたが、私はあきらめませんでした。姉や先生からたくさんアドバイスをもらい、その通りに一生懸命練習していると自分でもきれいな字だなと思える作品が書けるようになつてきました。

四年生の時には、書初め大会で日本武道館賞を受賞しました。とてもうれしくて、今でもその時の感情が深く心に残っています。そのうれしさから私はますます書道が好きになり、より一生懸命練習するようになつて、いつのまにかあこがれていた姉の姿に近づいていくことにも気がつきました。

今は六年生になりさらに難しい課題を練習していく、大きくなりびのびと書くように努力しています。

姉は中学校卒業と同時に書道から離れましたが、今まで姉が書いた毛筆の作品を見るとともに、私が目指しているすてきな字の今まで品が書けるようになつたのです。そして、今度は小学校三年生の妹が私の姿を目指そうと思えるくらいになりたいです。